平成 24 年度

東日本大震災支援事業実施報告書

はじめに

Ⅰ　主旨・目的

Ⅱ　実施事業概要

Ⅲ　実施報告書

Ａ　イベントの実施を通じた地域コミュニティの再生支援事業

１　福興応援団『暮らし再建・なりわい再生プロジェクト』

大船渡第一中学校

２　被災営業者支援・地域コミュニティ再生支援事業

「出会いふれあい交流イベント」大槌

３　内陸避難者対象、孤立・孤独死防止、地域コミュニティ再生支援事業

「内陸避難者交流会」北上

４　内陸避難者対象、孤立・孤独死防止、地域コミュニティ再生支援事業

「ふるさとお茶っこ交流会新年会」一関

Ｂ　被災営業者の支援事業

はじめに

平成23年３月11日に発生した東日本大震災は、発生後２年を経た現在でも、なお多くの傷跡を残しています。被災地域は復興への歩みを進めていますが、その道のりは険しく新たな問題も出てきています。

岩手県料理業生活衛生同業組合では、被災地の現状と要望を踏まえながら、地域全体への再生支援を通し、被災地・被災者の生活の再興を目指して、平成23年度に引き続き、平成24年度も東日本大震災支援事業を行っています。

被災地域では、被災営業者を中心に中学生への職業体験学習を行い、子供たちに将来への夢や希望を与えることに取り組みました。慣れない作業に苦労しながらも真剣な顔、楽しそうな表情を見せた生徒たちは、アンケートで７割が「将来の職業を考えるきっかけになった」、２割が「体験した職業に将来就きたい」と回答し、今後につながる成果がありました。

また、新たな場所で営業再開した店舗を会場にして、不自由な生活を余儀なくされている被災地域住民の方たちに交流の場を提供し、地域に活気をもたらす取り組みも行いました。交流の場が少ない地域でのイベントを喜んでいただいたほか、店舗の存在に安心や勇気をもらえるという声もいただき、被災営業者も元気づけられました。

内陸では、沿岸や県外などからの避難生活者の方々を対象に交流イベントを開催し、被災者同士あるいは地域住民や地元の料理業組合員とも交流を深め、組合員が提供した料理を楽しんでいただきました。

いずれも、地域に活力をもたらし、震災後の課題である孤立・孤独死の防止や地域コミュニティの再生を支援する取り組みです。これらは、地域に根ざし人々の楽しみである「食」を提供してきた料理業の店舗だからこそできる支援であると考えます。

当組合では、５店の沿岸被災営業者のうち３店が現在までに営業を再開、１店が再開準備に入っていますが、被災地での店舗運営の困難に加え、区画整備地域の問題や材料価格の高騰、施工業者の不足、二重債務など、問題は山積しています。求められる支援の内容も変化していきます。

岩手県料理業生活衛生同業組合では、そうした被災地域の声を聞きながら、生衛業・料理業の店舗として、より地域に貢献できる支援の在り方を考え、地域に活力を取り戻し復興への歩みを後押しする支援に、今後も取り組んでいきたいと思います。

平成25年３月

岩手県料理業生活衛生同業組合
理事長　　細川　正二

Ⅰ　主旨・目的

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の被災地では、復興への取り組みが進められているが、今なお被災者や地域住民は不自由な暮らしを送っている。また、沿岸から内陸に、あるいは県外から岩手県に移り住んでいる避難生活者も多く、慣れない土地での生活を余儀なくされている。

当組合に於いては、被災した 5 店舗のうち 3 店舗が営業を再開したが、なお地域全体の復興にはほど遠く、安定した経営も望みにくい状態である。

本事業では、被災地の現状と要望を踏まえながら、被災地及び被災者の生活の再興を目指し、イベントの開催を通じて被災者及び被災地域住民の方々の心に活力をもたらし、孤立・孤独死の防止や地域コミュニティの再生・構築を図りながら地域全体の再生を支援するものである。また、イベントを通して組合の活動を知ってもらい、組合加入促進や後継者育成も視野に、地域全体の活発な社会生活を支えていくことで、被災営業者の支援と地域の再生支援につなげることを目的とする。

Ⅱ　実施事業概要

1　イベントの実施を通じた地域コミュニティの再生支援事業

① 被災地や仮設住宅に近い学校で、被災営業者を中心に、子供たちに調理を教え、できた料理を父兄や近隣住民の方々に試食してもらう体験学習を実施。

② 内陸や沿岸で避難生活を送っている方々の住む地域で、避難生活者や地域住民の方々が参加できるイベントを行い、孤独防止や地域コミュニティ再生支援につなげる活動を実施。

2　被災営業者の支援事業

① 被災営業者並びに現地の他料理業営業者の現状調査。

② 全国料理業生活衛生同業組合連合会を通じた、被災地の現状報告と支援要請。

Ⅲ　実施報告書

１　イベントの実施を通じた地域コミュニティの再生支援事業

１　福興応援団『暮らし再建・なりわい再生プロジェクト』
大船渡第一中学校

12 月 10 日（月）大船渡市立根町「大船渡市立第一中学校」

①　参加者　大船渡市立第一中学校　２年生 112 人
スタッフ　62 人
被災組合員３名と家族
応援組合員１名と家族

②　事業内容　中学２年生 112 人を対象に、職業体験学習を実施。
・理容・美容カット、マッサージ体験　101 人
・調理体験（炊き込みご飯、つみれ汁、エビフライ、シュウマイ）11 人

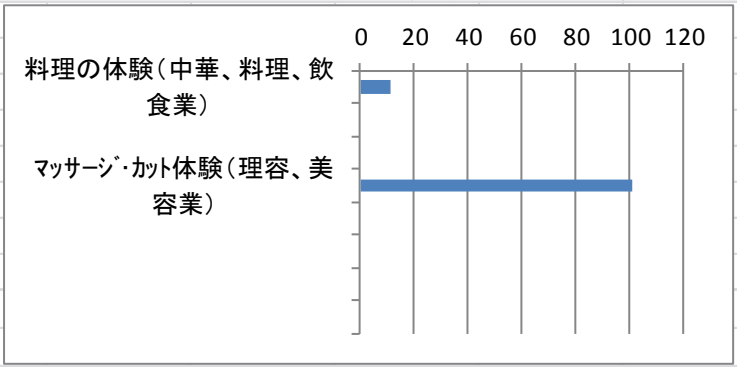
③　アンケート調査結果

回答者属性

年齢	男性	女性	
2年生(14歳)	58	54	
合計	58	54	112

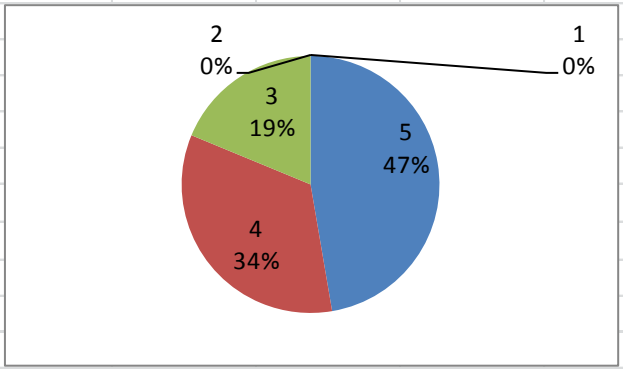
問１：「体験学習」では、どのような職業を体験しましたか？（複数回答可）

項目	人数
料理の体験(中華、料理、飲食業	11
ﾏｯｻｰｼﾞ･ｶｯﾄ体験(理容、美容業)	101
合計	112



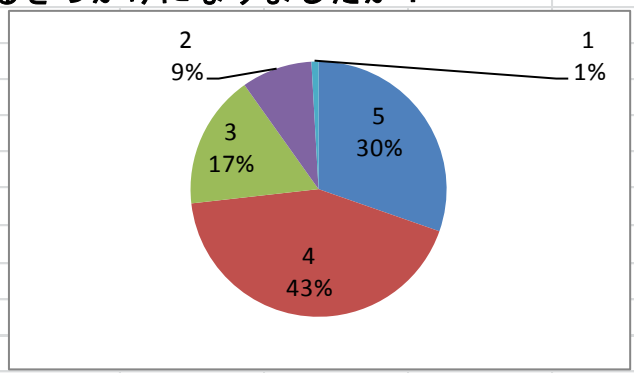
問２：「体験学習」の満足度はいかがでしたか？

項目	満足度	人数
大変満足した	5	53
満足した	4	38
ふつう	3	21
満足しない	2	0
全然満足しない	1	0
	合計	112



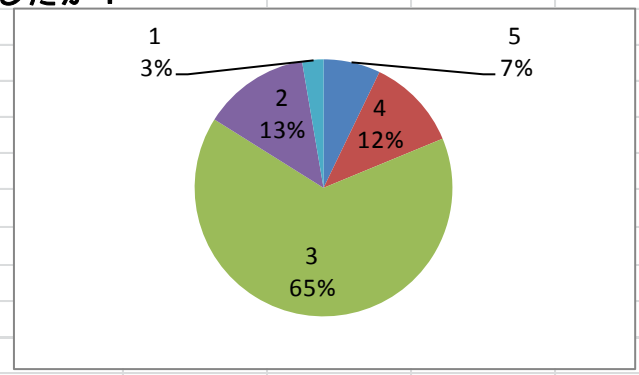
問３：「体験学習」は、将来の職業を考えるきっかけになりましたか？

項目	きっかけ	人数
大変きっかけになった	5	34
きっかけになった	4	48
ふつう	3	19
ならない	2	10
全然ならない	1	1
	合計	112



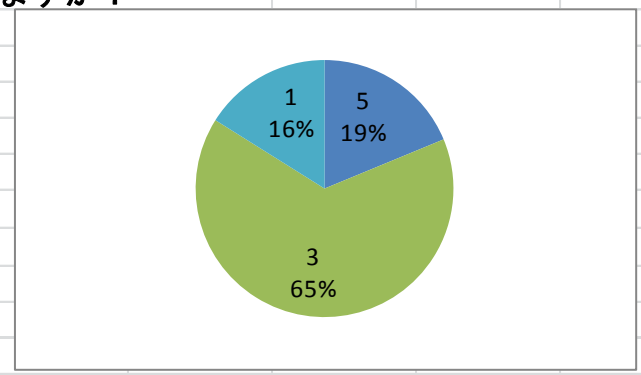
問４：体験した職業に興味・関心を持ちましたか？

項目	興味･関心	人数
大変興味･関心を持った	5	8
興味･関心を持った	4	13
ふつう	3	73
興味･関心を持たなかった	2	15
全然持たなかった	1	3
	合計	112



問５：体験した職業に将来なりたいと思いますか？

項目	就業意向	人数
なりたい	5	21
	4	
どちらでもない	3	73
	2	
なりたくない	1	18
	合計	112



問６：体験した感想を自由に書いてください。

①マッサージ、カットの体験

・美容師の仕事につきたいと考えていました。実際に体験したら、はさみの持ち方、着る角度などがとても難しかった。そんなに簡単な技術ではないんだと思いました。

・将来、なりた職業が美容師だったので、この体験にはすごく関心を持ちました。５名

・すごく楽しかったし、興味を持ちました。10 名

・ドレスなどのショー、友達がカットしてもらうなど、大変充実していたし、楽しかった。また、体験したい。13 名

・家に帰り、母にマッサージをしたら「すごい！」と言ってくれたので嬉しかった。

②料理の体験

・今回、シュウマイを作りました。最初の練るところから、力を入れ手の甲でやるのにとても難しかった。でも、やっているうちに上達した。皮に具を入れてシュウマイの形を作るところも難しかった。でも、試食の時は、とても美味しかったです。家でも作ってみようと思います。

・料理が好きで、たまに家でも料理するけど、海老フライは初めてでした。知らない作業ばかりで難しかったけど、とても楽しかった。今後、自分で料理を作れるようになりたい。

・初めての体験でしたが、とても親切に教えていただき、良かったです。また、体験したい。7 名

・野菜を切るのが大変だったが、料理作りが、とても楽しかった。

④　総評

財団法人岩手県生活衛生営業指導センターの『暮らし再建・なりわい再生プロジェクト』に、理容・美容業・飲食業・中華料理業の各組合とともに参加、料理業組合としては中学２年生 11 名にエビフライの調理の「体験学習」を行った。

震災後、行われなくなっていた「職場体験」を出前事業の形で受けた生徒たちは、エビや野菜の下ごしらえから調理、盛り付けまで行い、苦労しながらも、真剣な顔、楽しそうな表情を見せていた。アンケートの結果や感想を見ても、料理業への興味を深めてくれたり、職業として身近に考えるきっかけにしてもらえる機会になったと思う。

今回は作った料理を容器に詰めて仮設住宅の方たちに届ける形となったが、実際に目の前で「お客さま」に食べてもらう、という形をとれれば、さらに「体験学習」として得がたい経験ができたと思う。生徒の父兄なども参加しやすい曜日の設定を考慮できれば更によかった。

２　被災営業者支援・地域コミュニティ再生支援事業
「出会いふれあい交流イベント」大槌

10 月 24 日（水）上閉伊郡大槌町大ケ口「割烹 岩戸」

①　参加　　被災地域住民 100 名
被災組合員１名と家族、従業員
応援組合員　５名

②　事業内容

被災後、新しい場所で営業再開した店舗の周知と地域住民の交流を図るイベントを行う。イベントの一環として、カニクリームコロッケ 200 食を提供。

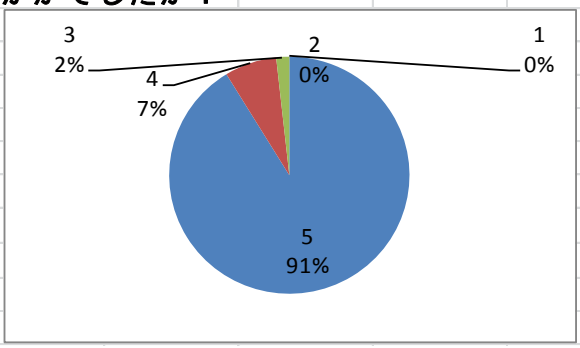
③　アンケート調査結果

回答者属性

年齢	男性	女性	
20未満	0	0	
20～29	0	3	
30～39	0	2	
40～49	0	6	
50～59	3	9	
60～69	3	16	
70以上	4	14	
合計	10	50	60

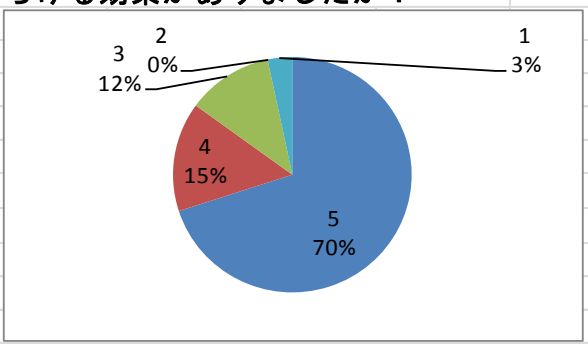
問１：「ふれあい交流イベント」の満足度はいかがでしたか？

項目	満足度	人数
満足した	5	52
やや満足した	4	4
どちらでもない	3	1
あまり満足しない	2	0
満足しない	1	0
	無回答	3
	合計	60



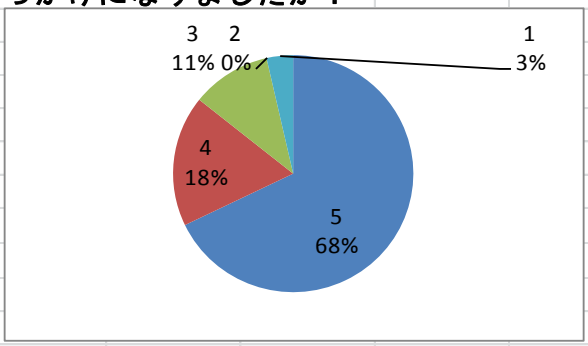
問２：イベント参加は、ストレスや不安をやわらげる効果がありましたか？

項目	効果	人数
効果があった	5	42
やや効果があった	4	9
どちらでもない	3	7
あまり効果がなかった	2	0
効果がなかった	1	2
	合計	60



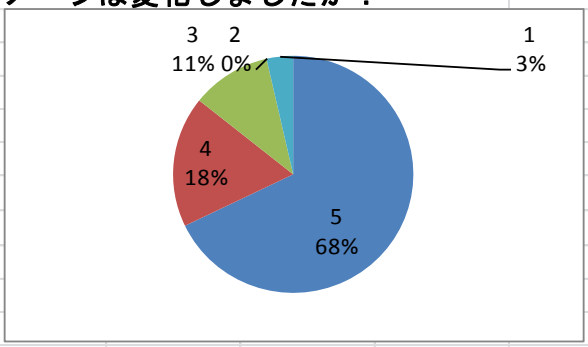
問３：本イベントは参加者同士の交流をもつきっかけになりましたか？

項目	きっかけ	人数
きっかけになった	5	38
ややきっかけになった	4	10
どちらでもない	3	6
あまりきっかけにならなかった	2	0
きっかけにならなかった	1	2
	無回答	4
	合計	60



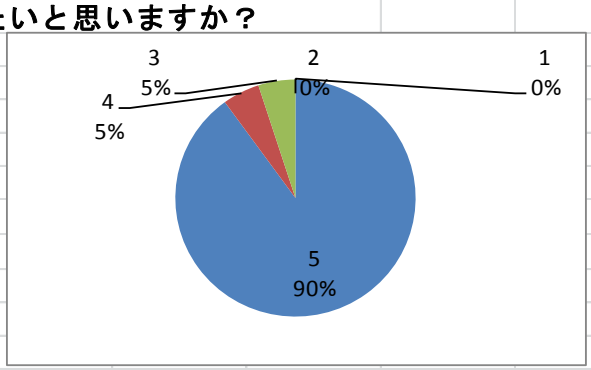
問４：本イベントによって、料理業に対するイメージは変化しましたか？

項目	イメージ	人数
よくなった	5	54
ややよくなった	4	3
どちらでもない	3	3
やや悪くなった	2	0
悪くなった	1	0
	合計	60



問５：今後も地域で行うイベント等に参加したいと思いますか？

項目	参加意向	人数
参加したい	5	54
やや参加したい	4	3
どちらでもない	3	3
あまり参加したくない	2	0
参加したくない	1	0
	合計	60



問６：ご意見・ご要望があれば自由にお聞かせください。

○とてもよかったです。お店だと知らなかったので、良い時を持ちました。次回あったら、また来ます。

○あることを知らなかったので、前もって知りたかったです。またお願いします。

○これからも地域の為にどんどんやって下さい。

○大変有意義であったと思う。地域の復興に役立てと思う。

○知らなかったので広く告知してほしかった。情報を知る場が少ないので、いつでも見られるネットにそういう場があればいい。

○年配の方々に喜んでもらう所で何かあるといいと思う。

○食べる事が大好きなので、イベントをお願いします。楽しみにしています。

○イベントがあると人が集り、会話もはずみ、明るくなれます。今后も何かがあれば、それをきっかけに外に出て並んで皆と話し、楽しい一時をすごせます。ありがとうございました。

○地域的に何もないので、ぜひ、この大ケロでしていただけるとうれしいです。

○近くにこういう場所があると思うと安心する。

○新らしいお店で利用したいと思い乍らためらっていましたが、このイベントでしたしみがわき利用しやすくなった気がします。

④　総評

被災営業者が新たな場所で再開した店舗で「ふれあい交流イベント」を行い、カニクリームコロッケ 200 食を集まった地域住民にふるまった。

事前に役員が被災・営業状況の聞き取りを行い、営業者の負担を考慮し、内陸で仕込んだコロッケを運んで店舗で揚げ、揚げたてをふるまうイベントとなった。

店舗を中心とした口コミでの開催となったが、通りがかりの人や参加者から聞いてかけつけた人など、交流が交流を呼び、満足の声も多く聞かれる盛況となった。ただし、告知が行き届かなかった不満の声もあり、今後の開催には改善が必要である。

店舗の存在を知らなかった人も多く、店舗の存在に安心や勇気をもらえるとの声もあり、被災営業者を元気づけた効果もあった。また、イベントの少ない地域での開催を喜び、次回を望む声がイベント後も店舗に届くなど、店舗と地域住民の交流も図れた。

３　内陸避難者対象、孤立・孤独死防止、地域コミュニティ再生支援事業
「内陸避難者交流会」北上

11 月 18 日（日）北上市総合福祉センター

①　参加　　内陸避難者 70 名
　　スタッフ 20 名
　　組合員５名

②　事業内容

沿岸や県外から岩手県内陸部へ避難して生活している方を対象に、交流イベントを開催。同所で行われていた避難者作品展示会に合わせ、ボランティアの余興、昼食会、交流会と現状の聞き取りを実施。北上市社会福祉協議会、食生活向上委員会と共同実施し、昼食として北上コロッケ 125 食を提供。

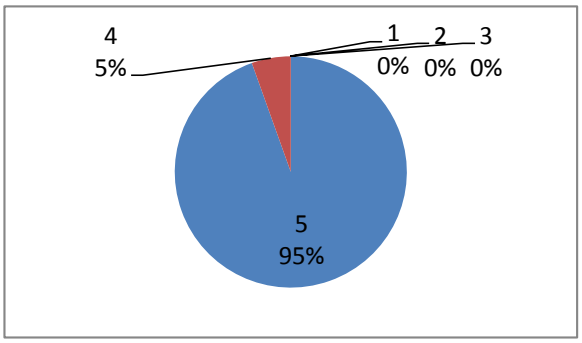
③　アンケート調査結果

回答者属性

年齢	男性	女性	
20未満	0	1	
20～29	0	2	
30～39	1	4	
40～49	2	1	
50～59	0	0	
60～69	4	11	
70以上	8	21	
合計	15	40	55

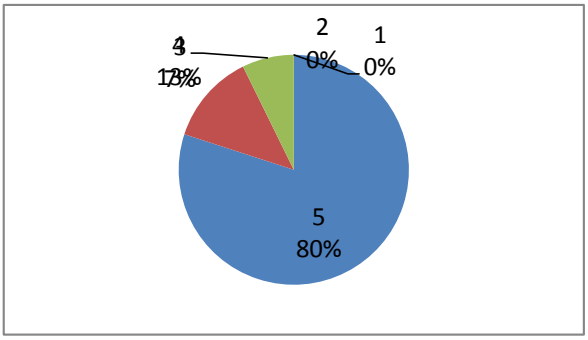
問１：イベントには満足していただけましたか？

項目	満足度	人数
満足した	5	52
やや満足した	4	3
どちらでもない	3	0
あまり満足しない	2	0
満足しない	1	0
	合計	55



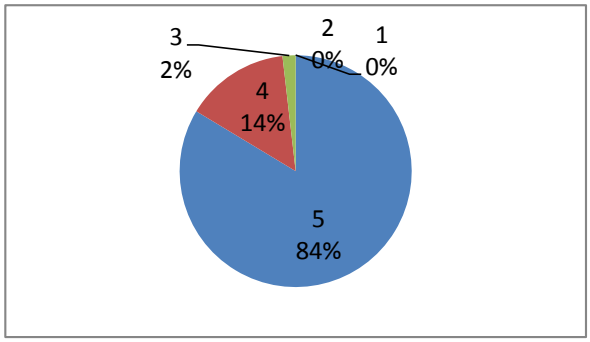
問２：イベント参加は、ストレスや不安をやわらげる効果がありましたか？

項目	効果	人数
効果があった	5	44
やや効果があった	4	7
どちらでもない	3	4
あまり効果がなかった	2	0
効果がなかった	1	0
	合計	55



問３：本イベントは参加者同士の交流をもつきっかけになりましたか？

項目	きっかけ	人数
きっかけになった	5	46
ややきっかけになった	4	8
どちらでもない	3	1
あまりきっかけにならなかった	2	0
きっかけにならなかった	1	0
	合計	55



問４：ご意見・ご要望があれば自由にお聞かせください。

○１年に１回でなく、年４回くらいやってほしいです。料理は大満足でした。

○展示会を兼ねた食事交流会とても満足しました。また企画することを願います。

○本場のイモのこ汁とコロッケとてもおいしく戴きました。

○こういうイベントに参加するのは初めて。料理がおいしかった。楽しかったし、ありがたかった。足が悪く、なかなか出歩けないが、楽しかったのでまた機会があれば

○交通費を考えると出歩けないので、こういうイベントに参加するのは初めて。送迎してもらえるので参加できた。釜石から来たが、知り合いもないので閉じこもりがちになる。今日は偶然昔からの知り合いに会えてよかった。お互いに誰がどこにいるのか知らずにいるので、こういうイベントで再会できるのはありがたい。釜石には頼るところもないので、好きな時に帰れないのが辛い。

○定期的に企画され実施して頂きたいと思います。

④　総評

北上市社会福祉協議会と協働し、総合福祉センターで行われた避難者の作品展示会に合わせて避難者交流会を行った。

ボランティアの会の余興と、食生活向上委員会と料理業組合による昼食の提供、その後、参加者の交流と現状の聞き取りが行われた。

住み慣れた街を離れ、慣れない場所での生活を余儀なくされている避難者の方たちは、出歩くにも足がなかったり、交通費の出費を控えたりして、閉じこもりがちになる、という声が多く聞かれた。同じ町に住んでいても知らずにいた旧知の人と再会できた、という話もあり、こういった交流イベント開催の重要性が再確認できた。

アンケートの満足度も高く、それまで馴染みのなかった地域の料理業の店舗や料理にも親しんでもらい、新しく地域コミュニティを構築していくきっかけになったと思う。

４　内陸避難者対象、孤立・孤独死防止、地域コミュニティ再生支援事業
「ふるさとお茶っこ交流会新年会」一関

１月 16 日（水）一関市「割烹　松竹」

①　参加　　内陸避難者 36 名
　　スタッフ 13 名
　　組合員 9 名

②　事業内容

沿岸や県外から岩手県内陸部へ避難して生活している方を対象に、一関市社会福祉協議会が定期的に開催している「お茶っこ交流会」の新年会として交流イベントを実施。場所と昼食 60 食を提供。

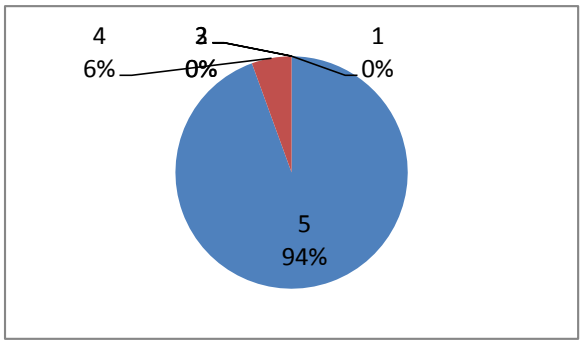
③　アンケート調査結果

回答者属性

年齢	男性	女性	
20未満	0	0	
20～29	0	0	
30～39	0	0	
40～49	0	1	
50～59	0	7	
60～69	7	8	
70以上	4	9	
合計	11	25	36

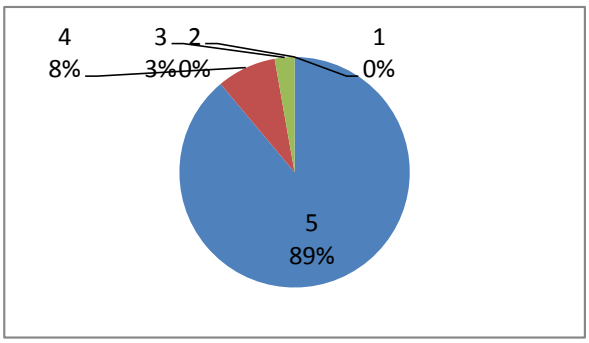
問１：イベントには満足していただけましたか？

項目	満足度	人数
満足した	5	34
やや満足した	4	2
どちらでもない	3	0
あまり満足しない	2	0
満足しない	1	0
	合計	36



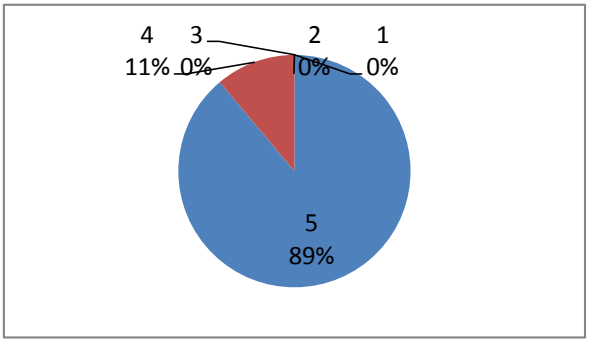
問２：イベント参加は、ストレスや不安をやわらげる効果がありましたか？

項目	効果	人数
効果があった	5	32
やや効果があった	4	3
どちらでもない	3	1
あまり効果がなかった	2	0
効果がなかった	1	0
	合計	36



問３：本イベントは参加者同士の交流をもつきっかけになりましたか？

項目	きっかけ	人数
きっかけになった	5	32
ややきっかけになった	4	4
どちらでもない	3	0
あまりきっかけにならなかった	2	0
きっかけにならなかった	1	0
	合計	36



問４：ご意見・ご要望があれば自由にお聞かせください。

○このような会を持っていただき、かんしゃします。またの会を待ってます。
○今日は、合同の為、参加者も多くにぎやかでした。
○我々に対する情報が欲しい
○私達の為にこんなに楽しい企画をして頂き、感謝でいっぱいです。おいしい食事、被災してこちらにお世話になって来ている人達と交流ができ、本当に良かったと思っています。スタッフの皆々様本当にありがとうございました。
○今日は久しぶりに顔みしりの方に会えて、うれしかったです。初めての参加でしたが、楽しく過ごすことができて、良かったです。又、よろしくお願い致します。
○震災から２年近くたっても、こうして支援していただき感謝の気持ちでいっぱいです。
○お茶っこのおかげで知り合いも出来、一関の生活も楽しくなりました。本日は食事をいただきお土産まで有難うございます。
○とても楽しかったです。ごちそう様でした。ビンゴも楽しく久しぶりに心から笑いました。震災後住みなれた所を離れて寂しかったのですが、一関の皆さんに暖かくしていただいてありがとうございました。
○避難で一関に来、まったく知らない土地に今後生活する事になりました。皆様今後もよろしくお願い致します。今日は楽しかったです。有がとうございました。

④　総評

一関市社会福祉協議会が定期的に行っている交流会「お茶っこ会」と協働し、新年会に場所と昼食を提供した。

いつもと違う場所での開催で参加者も多かったようで、より交流の場を広げる助けができたかと思う。組合員も多く参加し、会の後半には組合員が企画したビンゴ大会で、参加者の方たちにも大いに楽しんでもらった。

「久しぶりに心から笑った」というアンケートの一文が避難者の方のふだんの暮らしを物語っていると思う。馴染みのない街で避難生活を送る方たちにとって、こういう交流の場が不可欠であると感じるとともに、馴染みの人や場所を増やしていく足掛かりとして、街の生衛業者の店舗が担う役割は大きいと改めて感じた。避難者どうしの交流だけでなく、生衛業者が関わっていく交流も、これからさらに必要になってくると思う。

２　被災営業者の支援事業

１　被災営業者の現状調査

組合役員が大槌と大船渡の被災組合員を訪問し、現状の聞き取り調査と相談会を行った。

平成 24 年 12 月の段階で、被災営業者５組合員のうち３店が新店舗にて営業を再開、１店が再開準備に入っている。

しかし、地域の復興がままならず新たな課題も出てきている状況で、不安定な店舗運営を余儀なくされている。

組合員からは、

・新店舗の場所が人通りが少なく、周知もままならない
・現在の店舗の場所が区画整備地域になり、３～７年後には移動か取り壊しの可能性もあり、先が見えず不安
・被災前の店舗改修と被災後の店舗新築により、二重債務が重くのしかかっている
・再開の場所が決まったものの、施工業者の不足や材料価格の高騰で話が進まない
・グループ補助金がなかなか支払われず、復興が進んでいかない

などの声があがった。

支援事業の実施にも被災営業者の声が反映された。仮設住宅での生活が続き、新店舗の運営の苦労もあって疲弊している組合員も多く、支援事業の実施には相当の配慮が必要であったが、地域に活気を取り戻し共に復興を目指すという被災組合員たちの強い思いとそれをバックアップする内陸組合員の協力により、被災地および被災者への支援事業が実施できた。

２　全国料理業生活衛生同業組合連合会を通じた、被災地の現状報告と支援要請

全国料理業生活衛生同業組合連合会の理事会、大会、東北ブロック会議等に組合役員が積極的に参加し、支援事業と被災営業者の現状の報告を行い、より直接的な支援の働きかけを要請するとともに、全国料理業生活衛生同業組合連合会ならびに全国の組合員に、継続的かつ積極的な支援を要請した。